

*****佛事の常識・非常識*****

Q:お寺のお堂に入ると、荘厳な気持ちになるのはなぜ？ A:拜んで来た歴史があるから。

徳成寺や東本願寺、そして八十八ヶ所のお寺などにお参りすると日常生活と違った雰囲気を感じることがあります。不思議に感じますね。いろんな問題に頭を悩ませていても、お堂にお参りしたり、お仏壇の前で手を合わせると喧騒を忘れる瞬間があります。貴重な時間です。なぜそういうふうを感じるかというと、そこにお参りしてきた人々の歴史に触れるからではないでしょうか。擦り切れてきた畳のヘリや染みついたお香の臭い、そしてローソクを灯すことで出た煤で黒くなった御本尊。これらは何年も何十年も、何百年もかけて人々がお参りをする事で積み重ねてきた結果なのです。その積み重ねてきた歴史を感じるの、日常とは違う荘厳な気持ちになるのでしょうか。お仏壇の前に座っても、そういう気持ちになるはず。仏様とは、仏様を拜んで来た人々の歴史や伝統なのです。そこで問題は、お寺やお仏壇の前のみならず、折角の荘厳な気持ちをいかにして普段から保ち続けるかです。そこでいつでも誰でもどこでも保てるように、南無阿弥陀仏というお念仏を称えることが浄土真宗の教えになっているのです。こういう時間を皆さんにぜひ確保して頂きたいのです。

*****ハッピープレゼントクイズ*****

クイズに答えて景品をゲットしよう！！

正解者の中から抽選で5名様にお花の苗ポッドをプレゼント。

問: 一生に一度限りの機会という意味の熟語は、次の三つの中のどれでしょうか？

- ① 苺一会 ② 一期一会 ③ 一期一絵



答えの番号と感想と、住所・氏名をハガキか fax で徳成寺まで送って下さい。fax の受付は、朝8時～夜9時までとさせていただきます。

〒760-0017 高松市番町 2-13-25 宛て 徳成寺ハッピープレゼントクイズの係までふるってご応募下さい。毎月22日締切 当選者の発表は景品の発送に代えさせていただきます。先月の答え、③大盤振舞いでした。誇張する意味ではないですね。

*****坊守の月イチブログ*****

親と子 永六輔著



古本屋で見つけた、2000年1月に発行されているので、もう17年も前の本である。親と子の関係は昔に比べてどんどん希薄になっている。親と子だからうまくいかないことばかり。なんとなくわかっていても、永六輔さんにまとめていただくと問題点が簡潔に浮かび上がる。そうだよ、そうだったんだ、と頷きどころが満載。親子関係は今も昔も複雑怪奇。

永六輔さんはお寺の子で、お寺にご縁があるのか、ご法話もテープ起こしをして載せている。これがまた面白い。メディアの方なので話は面白く、中身は深い。

古本なので、私の前に読んだ人が所々赤線を引いている。よほど心に響いたのであろう。私はこの赤線を引いた人とは全く違う箇所の言葉が心に響く。お説教の上手なおじさんがこの世からはどんどん少なくなって、つまらないな、と思う。もっと積極的に追いかけて、永六輔さんの蘊蓄を聞いておけばよかった、と後悔しきり。

@かわら版不要の方は恐れ入りますが087-821-6348へご連絡下さい。